



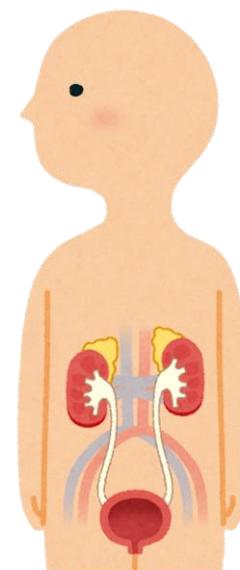
糖尿病道場

vol.36 2020年 春号 北晨会恵み野病院 糖尿病・生活習慣病センター
糖尿病療養指導士会

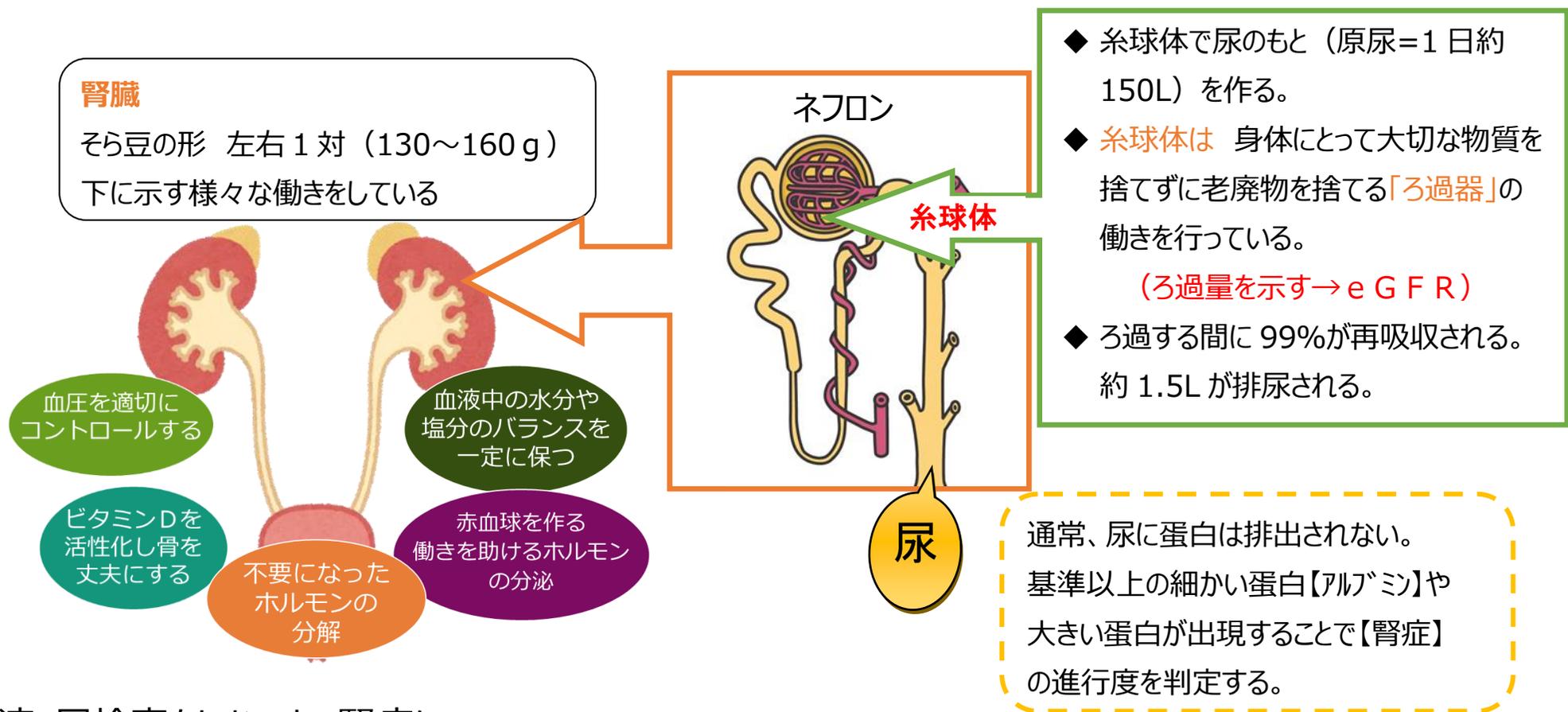


糖尿病性腎症とは？

糖尿病では血糖が適正な状態を続けていると、何の症状も現れません。しかし、長期間に渡り、高血糖状態が続いていると「糖尿病合併症」を引き起こすといわれています。糖分の多すぎる血液が全身を巡ることによって生じる合併症は、全身に起こり、その中の一つに「糖尿病性腎症」があります。



糖尿病による高血糖の影響で、腎臓の中にある『糸球体』に支障をきたし、十分に機能を果たせない状態に陥るのが糖尿病性腎症です。しかし、症状は出現しないため、進行した「腎不全」になって初めて何らかの症状が現れる方がほとんどです。



血液・尿検査をしないと 腎症に気付くことは出来ません。

腎症の進行具合も 検査をしないとわかりません。

定期受診を継続し、検査で自分の腎症の状態を把握しておくことが大切です。

糖尿病性腎症病期

病期	尿アルブミンあるいは尿蛋白値	GFR (eGFR)
第1期	正常アルブミン尿 (30未満)	30以上
第2期	微量アルブミン尿 (30~299)	30以上
第3期	顕性アルブミン尿 (300以上) あるいは持続性蛋白尿 (0.5以上)	30以上 (尿毒症症状の出現)
第4期	問わない	30未満
第5期	透析療法中	